

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	09 05 01	中期総合計画主要施策番号	1-04,1-08,5-06			担当課	部・課	林務部野生鳥獣対策室	
事業名	野生鳥獣総合管理対策事業						内線	3264	
							E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H16 ~	根拠法令等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律						
実施方法	市町村・協議会等へ補助金を交付し実施。							国庫・県単	国庫補助事業・県単独事業

事業の概要等	目的 (必要性)	野生鳥獣との緊張感ある棲み分けと野生動物による農林業被害の軽減を図るため、総合的な被害防止対策を実施する。				
	対 象	市町村、対策協議会、集落等				
	目指すべき姿	地域特性に応じた総合的な被害防止対策を行って野生鳥獣と共存できる環境をつくり農林業被害の軽減を図る。 (H23～27年度：ニホンジカの生息頭数をH22年度の約105千頭からH27年度に35千頭とする。)				
	事業内容	<p>農林業等の行政組織が一体となった「野生鳥獣被害対策チーム」等による集落を単位とした総合的、複合的、継続的な取組を支援する。特に、被害の大きいニホンジカの捕獲対策を進めるため、集落ぐるみの捕獲体制のモデル整備、メスジカ捕獲の強化、有害鳥獣捕獲者支援対象者の拡大を図る。</p> <p>・被害防除対策(追い払い、樹皮剥ぎ防止テープ巻き、緩衝帯 補助率：【国】1/2又は【県】1/2)</p> <p>・捕獲・管理(広域捕獲支援、有害鳥獣捕獲者支援、学習放獣等 補助率：【国】1/2又は【県】1/2)</p> <p>・個体数調整(補助額：【県】メスジカ2,500円/頭,サル2,500円/頭,イノシシ2,000円/頭)</p>				

事業コスト	区 分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)		千円	92,514	88,980	141,175	
	決 算 額 (B)		千円	92,930	88,180		
	B(H24はA)のうち一般財源		千円	31,591	37,980	60,120	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.50	3.50	3.50	
	概算事業費 (B(H24はA) + C)		千円	122,040	117,083	170,078	
事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	ニホンジカの捕獲頭数(活)		頭	20,520	27,167	35,000	
	集落ぐるみの捕獲体制整備集落数<活>		千円		6	30	
	農林業被害額 成		千円	1,491,126	1,417,680		
	<効率指標(単位当たりコスト等)> ニホンジカの1頭当たり捕獲費		円	5,947	4,310	4,859	

事業の成果	事業の目標(H23)			事業成果・評価			評価区分
	・集落ぐるみの捕獲体制を3地区でモデル整備する。 ・ニホンジカを年間25,000頭(うちメスジカ18,000頭)捕獲する。			・集落ぐるみの捕獲体制のモデル地区を6地区(200%)で整備した。 ・平成24年3月末で27,167頭(109%)のニホンジカを捕獲し、そのうちメスジカの捕獲頭数は15,171頭(84%)であった。 以上から「概ね期待どおり」であった。			b 期待どおり

事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・県下の約9割の市町村で事業が実施されており、要望額は増加傾向。 ・ニホンジカ等による被害対策は、専門的かつ広域的な取組みとなるため、引き続き県が関与する必要がある。 ・抜本的な被害対策を進めるためには、捕獲対策を強化する必要がある。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	・総合的な被害対策が十分でない地域もあるため、引き続き集落ぐるみの対策を総合的、計画的に推進する。 ・ニホンジカによる農林業被害等の軽減については、集落から広域までの多様なレベルでの捕獲を実施し、適正な生息頭数へと誘導することが必要である。特にメスジカについては引き続き積極的な捕獲を推進する必要がある。
	特記事項	